

# 萬國幼稚園 協會案 幼稚園要目 (二)

## 第一章

### 汎論

此の幼稚園要目は、四歳から六歳までの幼児の必要に應じて選擇した、主題及實際から成立つものである。その主題の内容は、兒童の共通の經驗を代表したもので、即ち、

1、自然物及自然現象

2、人類及人事(家庭及社會生活)

3、人智の産物(文學、音樂、美術等)

等に相偶して、兒童が得た經驗を含んでゐる。實際言語發表、手工、畫、唱歌、劇、競技等は經驗の發表さるゝ通路であつて、又それによつて經驗が、限定し、組織立てられるものである。

是等の實際の様式は、幼兒の本能の或物を満たし、なほ其の使用法當を得たる時は、兒童の啓發と教育に特種な貢獻をなし得るものである。

此要目の總ては、實際と發表に重きを置く最良の小學校課程に一致する所がある。故に幼稚園と小學校初等教育とに共通な各主題の教授又は教授法は連絡を保ち得る様に整理されなければならない。

扱、幼稚園が良く設置せられた學校制度の一部と成た時は、讀み方と書き方が幼稚園の後半期に於て紹介さるべきか、否か、と云ふ問題が屢々提出される。其の答としては、其の年齢に於ては總ての幼兒が著手し得るに充分であるとは認めない、とせられてある。何處でも五歳から七歳までの子供は、或點では自分の名を書くことゝ、自分の周圍にある印刷や書き物の文字を解釋しようとする事に熱心である。そして幼兒は言語上の實力を、自分で書いたり讀んだりする處までのばさうとして居る。多くの年長者も此の事には非常に興味を持ち又重要視してゐるのである。かような時期が來ると——幼稚園でも又小學校初等科でも——教師又は指導者は、最上の

方法を以て此の問題を教へようとする準備しなければならぬ。現今読み方と書き方を教へる方法は、一般幼稚園教師養成の中にも含まれてあるが、もしかやうな養成を受けなかつた教師達は自分で修得すべきである。蓋し總ての教師達はそれが充分適當の時機と思つた時には、子供に對して、言語使用の道程に於ける第二步を進め得る。と同様に小學校初等科教師も、發達の遅い爲に、読み方や書き方の教授を受けなかつた兒童に對して——幼稚園では特種な方で授けられた仕事を——上手に與へる様に準備すべきである。實際此の問題は、兒童の學校生活に於て屢々猶豫せられすぎるとも、早すぎるとも多様である。然し此の兩方面の過失は、幼稚園及び小學校初等科の教師達が、兒童の學校生活の最初の三四年間に教へるべき必要事項に對して充分の準備を持て居れば容易に避けらるべき事である。

今や委員會(萬國幼稚園協會の)は、此處に提出された、幼稚園要目に基いて小學校の課程を作らんとして居る。此の委員會は、読み方と、書き方の問題に對して最も正統な方法を取ると信するものである、なほ又是等の問題が、幼稚園要目、小學校課程兩

者の他の状態に非常に密接な關係のある事を示す、故に此處には此問題に就いて之れ以上に論ずべき必要はない。次章に於て、幼稚園要目を、目的、主題、方法、實習等に分けて論ずる事とする。

## 第二章

### 主材。生活行事。自然科學。

幼兒は、經驗と云ふ事の中に、社會接觸に據る經驗と、單なる自己經驗との區別をしない。又幼兒は自然物、自然現象、人間の活動に多大な興味を持つものである。故に日程を組立てる際にも、此の二つの經驗の間には確然たる區別を作らぬ事を希望する。

## 目的

重要な環境の事物に對しての興味を増進すること。

經驗を正確にし、擴張し、了解し且つ組織立てること。

理想的な習慣と態度を養ふこと。

## 主材

若し是等の目的が是認さるゝとしたら、日程を作るに際しては絶えず基礎的の考查を念頭に置かねばならぬ。

(一)、選定された主材は、児童が興味を有するものか又は重要だと感ずるものでなければならぬ、故に主として、主材は、児童の自由な活動や計畫的な遊びの中に喜んで取り入れられ又新しい経験への要求を満たす様なものでなければならぬ。

児童は彼等自身の自然性として、年長兒や成人の日常の仕事に依て暗示された空想の遊びにふける。

家事遊ホムトや人形遊、又家を建てたり旅行をしたり、學校へ行たり、スケートをなしたりする。そして是等の遊びを容易ならしむる材料、事實、考案を大層熱心に取り入れる、同様に自然物や自然力は児童の興味を最も長くとらへる。

(二)、選擇される家庭と社會生活は、児童の興味を中心としたばかりではいけない、それ等の社會的地位と意義とを参照しなければならぬ、と云ふのは

是等の興味は次へゝと發展すべきものであつて、食物、衣服、住宅、休息、美、娛樂等の一般人類の必要に關係深い活動と目的とを其の中に含有して居るからである。

(三)、児童の日々の経験は或興味並に活動に對する刺戟と情緒とを包有して居る。それらは特に選擇された主題ではなくとも、それにかゝはらず發表の機を與ふべきである。長靴や、レインコート、雨傘等の興味ある附屬物を持た「雨の日」は畫いたり、歌つたり又劇的な遊びに依て其興味を發表させる方が計畫立てゝ居つた立案や仕事の何物よりも「雨の日」その日としての意味が深いのである。多くの價値ある自然経験は日毎の豫定に對し偶然に勃發して來るものである。

児童は、動物の動作、花や葉の色彩、貝類の珍らしい形をよろこぶ。又彼等は蛾が繭から美しい絲を靜かにのばすのを不思議さうに目守て居る。そして月や星等の天體の出現にひきつけられる。かうした興味は日を重ぬるに従て児童自らに日一日と明白になつて來るから、そこで適當な方法によつて是等の興味に就いての發表を獎勵する事が必要になつて來

る。

(四)、最後に兒童の完全な發達に肝要な、兒童の發動と遊び——それは上に紹介した主材に何等暗示せられぬ全然別なもの——がある。

兒童は彼等自身の想像や理想を、具體的な材料で試めず機會を必要とする。實際子供は、選擇せられた主材とは何の係りもない——然し子供の活動と、感激と興味とは親しい——多くの歌やお話を必要とする。かようにして子供は自發活動に依る自由行動——あちこち飛びまわつたり、立場を轉換したりする事等——を必要とする。

次章に是等の活動の種々な型の例を舉げる。

## 方法

家庭社會生活及び、自然から選擇された主材を用ふる方法は、一般に次の様である。

一、實物、代表玩具、繪畫、會話、又は聯想に依て子供に親しい日常の經驗を呼び起すこと。

二、遠足又は教室其他に於ての實物教授に依て、經驗を擴張すること了解すること。

三、遊び或は二三の發表の方法に依て、經驗を組

織立てる事を了解する事。

第三は常に兒童が興味を持って解決する問題を含んで居る。例へば土のお菓子屋さんごつこに就て考へて見れば、先づ起る問題は、如何してお菓子を焼くかと云ふ事で、其處にはじめて鍋の必要が認められるのである。即ち兒童にとつての第一の問題は、

「如何にして此の紙片を私のお菓子をのせる器にしようか」と云ふ事であり、第二の問題は、

「如何して私はこのお菓子皿をあぶる窯を造らうか」と云ふ事である。

## 主材梗概

此の主材梗概は、前述の標準に對しての説明である。即ち公立學校に於て價值ありと認められた主材、米國生れで教育のある米國市民の兩親を有て良家庭から來る兒童。

かような或殊特な立場にある兒童の經驗から直接引き出したものが此處に謂はるゝ主材である。

然し此の梗概は數多の環境に適合し得るものと信ぜられ且つ細い事件は異つた社會に於て、必要に応じて變化出來得るものである。

九月、十月、十一月

一、家庭生活。家族。家庭内の世話。

家族の食事の準備。

二、食物の起原。庭。菜園。市場。行商人。牛乳屋。

食物の供給に關する職業。

食料品——果物。野菜。穀物。卵。ミルク。

パン。バター。——に對する注意。

食物を造る簡單な方法。

三、季節に應じた活動及興味。

冬の準備としての保藏法。罐詰法。

花、葉、果實、種子、クルミ類をあつめる事。

球莖を植ゑること。

毛蟲をあつめる事。感謝祭の準備。感謝祭。

十二月

クリスマスの準備。サンタクロース。玩具店。

贈物造り。クリスマスストリー。クリスマス祭。

一月。二月。三月

一、社會生活。諸種の家族の住宅。街路。散歩。

諸種の家族に必要な公共建築物。大小の商店。

郵便局。消防派出所。學校。寺院。

二、季節の興味。戶外遊。——雪遊、冰遊。

家庭其他建築内の暖法と點燈。聖バレンタイン祭。

ワシントン誕生記念日。秋植ゑた球莖の芽生える

世話。家畜——小鳥、小魚——の世話。

四月。五月。六月。

一、衣服に關した職業。衣服を造ること。

店で布を買ふこと。

二、季節に應じた活動と興味。公園、遊園の生活。

自然界の春の訪れを迎ふる遠足。木々の芽ぐみ。

渡り鳥の歸來。野の花。

戶外遊——石彈。コマ。庭園造り。鳩や鶏の雛の

かへること。イースターの祭。メイデイの祭。

埋火や壁には客の影ぼうし

芭蕉